

D—5 エンゲル係数の現状と将来

お茶大家政 伊藤 秋子

1. 戦後20年を経た今日、家庭の消費構造はほぼ安定してきたとみられる。このうち、食料費の割合は減少してきたが、最近においては減少傾向が停滞気味である。戦後20年間のエンゲル係数と食料のうちで家庭生活にとくに重大な意味をもつ穀類費と動物性食品費の割合の変動を考察し、この結果からこれらの将来の動向を推計する。ここではエンゲル係数の現状と将来を取り扱い、食料費構造については、古村靖子「食料費構造の現状と将来」において報告する。

2. (1)総理府統計局：家計調査の結果に基づき、昭和22年から40年までのエンゲル係数の変動を分析する。(2)、(1)の結果からえたエンゲル係数の変動に傾向曲線をあてはめ、今後10年間の傾向を推計する。

3. (1)名目エンゲル係数は昭和22年から40年まで、指数曲線をなして低下してきているが、実質エンゲル係数は、昭和22年から25年まで上昇し、それ以後はゆるやかな logistic 型の低下傾向を示している。(2)実質エンゲル係数に logistic 曲線をあてはめると次のような式となる。

$$E = \frac{72.91127}{1 + e^{\frac{2.355083 - t}{-2.643356}}}$$

ただし、 t の単位は7年である。

将来、もしこの傾向が持続するとすれば、今後10年間どのような値になるかを推計する。